

# いそくじ 以速寺通信

2012/6 第116号

真宗大谷派三鏡山以速寺 発行  
〒593-8312 堺市西区草部 79

TEL 072-275-0339

FAX 072-272-3020

今年も残り半分ほど



これからが  
これまでを  
決める

藤代聰磨

## 永代経 法話 (抄) その2

蓮正寺住職 三好泰紹 師 みよし ひろゆき

2012/4/21

さて、今日は永代経と言うお勤まりです。この永代経というのは、そもそも永代経というお経があるわけではありませぬ。皆さんこそんじですね。

私たち真宗門徒の正依（しようえい）正しい依りどころ）とする教え、これが浄土三部経と言う教えです。

では、浄土三部経というのは何ですか。三部というくらいですから三つあるわけですね。何と何と何でしょう。

（会場から『阿弥陀経』という声がある）そうですね。『阿弥陀経』もその中の一つです。あと二つ。

ところで、うちの方では、年忌法要の時、「おじゅっさん三部経勤めて欲しいんや」と連絡あるんです。そんなに離れてないからこのあたりも同じと違えますか。

（やがて会場から『無量寿経』という声がある。）そうですね。『無量寿経』と、あと一つはあんまり馴染みがないでしょうか。『観無量寿経』というお経さんです。

この三部のお経さんが私たち真宗門徒の正依の經典ですね。親鸞聖人も法然上人もお経のなかにある言葉に従って、「本願」をいただいでいかれたんです。

何も、知識として覚えておいていただかなくていいんですよ。ただ、三部経って言われるのは、この三つのお経さんのことなんやということですよ。



で、永代経というのは何かと言うと、このお経さんを永代にわたって繋いでいく。続けていくということですよ。もうちょっと丁寧な言つと、「いただき続けていく」ということです。こういう仏法のお仕事があるのです。

お釈迦さまが、お説法された内容をお弟子さんたちが「ああこれは大切なお言葉や」と聞いて行かれた。

そして、大切なお言葉だから書きとめて後の世にも伝えていこうということが始まった。それが今までずっと続いてきたんです。

二千五百年前にお釈迦様はお説法されたといわれておりますけど、だいぶ前ですね。たぶん皆さんが生まれる前です。それから、長い長い歴史を経て、今私のもとにこのお経さんが届けられたんです。

届けてくださった途中の誰かが、一人でも「やくめた」って言ったら、届かなかったのです。すごい歴史でしょ。永代経の中味の一つはお経が届けられたということを感じることですよ。

そして同時に、仏法を聞き開くということが大切です。これは正依の三部経の中味を私たちがいただくということなんです。私と関係なく、お経がなんとなく有るんじゃないんです。いただきんです。

私たちが「ああそつやな」「これは大切なお言葉やな。大切な内容やな」とまずいただいで、次に「後の世のために残さなあかな」ということに思いを巡らす法要が永代経なんです。

ただ単にお寺から永代経が勤まりまっせということでないんです。皆さん方お一人お一人が、永代経という御法事を勤めるんです。 文責住職

しゅうそしんらんしゅうにん  
宗祖親鸞聖人物語二

一 吉水の草庵 一



「そうであった「親鸞聖人は一人つな  
づいた。今日もまた朝もやの中、祇園  
社（現在の八坂神社）の境内を抜け、  
木々に囲まれたゆるやかな坂道を登っ  
て法然上人がおみえの吉水の草庵へ向  
かっている。

「ここを初めて歩んだのは、たった  
百日前。随分前のことのように思われ  
る。そう大きく私の生き方が変わる百  
日であった。

しかし草庵を初めて訪れた時には驚  
いた。様々な身分の者がこれほどもで  
に一堂に集つことがあるとは。

思えば、私は法然上人の御姿を見る  
前から教えを受けていたのかもしれない。  
あの時、確かに誰もが、□々に「南  
無阿弥陀仏」を称えておられた。

ああ、百日という時間をかけて私は  
法然上人と出遇つことができた。

いや、お念仏の教えに、つまり阿弥  
陀の本願に帰すことができた。

いやまてよ。百日ではないな。西親  
の別れを縁とし比叡山に登って修行を  
積んだ、その全ての歩みがお念仏に遇  
うためにあったのではなからうか。  
もはや、山にいた時のように智慧す  
べれた者にならうとは思わない。どん  
な修行も必要がない。そんな絵空事で  
はなく愚者としての自分を引き受けよ  
う。そう、どんなの修行も及ばない身  
であることを改めて見つめれば、いよ  
いよ阿弥陀の本願が頼もしく感じられ  
る。なにせ、男も女も身分をも選ばず、  
誰をも必ず救つと誓われたのが阿弥陀  
如来の御本願であるから。」

「綽空（しゃくくう）いい笑顔じゃ  
突然良く通る声で呼びかけられた。

振りむくと、そこには先輩僧が微笑  
んでいる。「ああ、安楽房様。」

「ははは。先日までの鬼のような形  
相とは真反対の笑顔じゃ」

「おお、綽空二今度は違つ声か呼ぶ。  
「綽空様」野良姿の老婆が呼ぶ。

次々と挨拶を交わし、聖人は改めて  
感じた。「ここには孤独がない」。

お念仏を中心に誰でも打ち解けあ  
える場所。それが吉水の草庵であった。

「以速寺仏教婦人会」総会を開催

さる八月十日、以速寺仏教婦人会の  
総会が開催されました。

午後1時から同朋奉讃式による正信  
偈のお勤めを唱和し、代表の倉崎  
和美さんによる挨拶と新役員紹介の後、  
北畠顯信（きたはたけんしん）先生か  
らご法話をいただきました。皆さんそれ  
ぞれに先生の豊富な話題に深くうなづ  
いて聞き入ったようです。

引き続き仏教婦人会のメンバーも参  
加している「JASフリンゴコール」の  
合唱を二時間ほど鑑賞しました。

参加者が一緒に声を出して歌つ時間  
もあり、本堂が歌声に包まれました。

お忙しい中出席していただいた皆様  
と共に、企画準備に奔走してくださいま  
した役員の皆様にご心よりお礼申し上げ  
ます。



たいや  
以速寺お逮夜のご案内

親鸞聖人のご命日は11月28日です。そこで、毎月27日の夜に以速寺本堂で「お逮夜」（法要前日の夜のお勤め）を勤めます。

また、「まんがで読む宗祖親鸞聖人」も重ねて開催します。まんがも資料もお寺で準備します。



皆様お待ちしています(^\_^♪)

- 6月27日 午後7時30分から お話 住職
- 7月27日 午後7時30分から お話 住職

★8月は15日にお盆のお勤めをします。★

第32回夏季仏教講座のご案内

☆とき 8月3日（金） 午後2時30分～午後4時30分  
（開場 午後2時）

☆ところ 堺市民会館（大ホール） 072-238-1481

☆講師 いちらく まこと 一楽 真師 大谷大学文学部教授

☆演題 『浄土を願って生きる』～つながりの回復～

大阪教区第21組が主催する夏季仏教講座です。どうぞご予約ください。



編集後記

気がつくくと、今年も半分が終わろうとしています。東北関東大震災からも一年三カ月が過ぎました。

今、被災地の方々も日々におつしやることは、忘れないでという一言です。私はこの言葉を聞いて、正直「大丈夫。直接震災を経験していないからって、あんな大きな地震を忘れるわけない。」と、たかをくくっていました。

ところが、この六月十一日、夜寝る前に見たインターネットの30日で震災から一年三カ月」という文字に、愕然としました。私は十一日に震災が起こったということをすっかり忘れていたのです。震災で「く」なられた多くの方の月命日でもあります。

いくら忘れやすい性格だとはいえ、これには驚きました。日々の生活に追われ、こうやって震災が他人事になつて行くのでしょうか。いえ、それは震災の記憶だけはないかもしれませんが。時と共に、なんだか大切なものが私をすり抜けていくような気がします。そもそも節電が叫ばれる関西にどうして震災とは現在進行形の問題なのですか。

ふと、とある先輩の言葉を思い出します。

お寺は立ち止まるためにある。日常と違う空間でちよつと立ち止まって自分自身を振り返る場所なんや。」

なるほど、お寺だけでなくお内仏に手を合わせるということも、こんな意味も持つのではないのでしょうか。

今さらながらお寺に住みながらバタバタしている私は、一日もつ少しでも仏様に手を合わせ、自分自身を振り返る時間を作らなければと改めて考えました。

皆さんも振り返る時間を作りませんか。住職 山雄 竜磨